

## 新城消防のあゆみ

昭和30年4月町村合併により新城町・千郷村・東郷村・舟着村・八名村の各消防団が合併し、5分団48部1,710名による新城町消防団が発足した。

昭和31年9月新城町、鳳来町の境界変更に伴い68名減員して5分団46部1,642名となった。そして昭和32年5月には、団本部へ消防ポンプ自動車を購入配車し、機動性をもつ近代的な消防団として団員の志気高揚と消防力の強化を図った。

昭和33年11月市制施行に伴い新城市消防団と改称し、その後も消防の近代化を目指して整備を進め、昭和40年には常備消防を発足し、消防力の強化拡充に努めた。

平成8年4月には、南設楽郡鳳来町及び同郡作手村の消防事務を受託し広域消防が発足、さらに平成11年4月には北設楽郡5町村（設楽町・東栄町・豊根村・富山村・津具村）を加えたモデル広域消防が発足した。

平成17年10月市町村合併で構成8市町村のうち、新城市・南設楽郡鳳来町・同郡作手村が新城市と、北設楽郡設楽町・同郡津具村が同郡設楽町と、翌月11月北設楽郡豊根村・同郡富山村が同郡豊根村とそれぞれ合併し、管内4市町村の構成となった。

昭和30年	4月	新城町消防団が、5分団1,710名で発足
昭和33年	11月	市制施行に伴い新城町消防団から新城市消防団へ改称、5分団1,642名となる
昭和36年	4月	消防団の整備を行い、1,163名となる。
昭和38年	12月	消防ポンプ自動車を購入、西部分団第4部へ配車
昭和39年	9月	消防本部・消防署設置事務局を設置
昭和40年	3月	消防ポンプ自動車を購入、西部分団第6部へ配車
	4月	消防本部・消防署(消防職員17名、消防ポンプ自動車1台、オートバイ1台)を設置し、消防業務を開始 常備消防発足に伴い消防団の整備を行い、10分団43班628名で消防ポンプ自動車2台、三輪ポンプ自動車6台、手引動力ポンプ10台、小型動力ポンプ24台、積載車(三輪)1台となる。
	7月	水槽付消防ポンプ自動車を購入、消防署へ配車
	8月	消防職員4名増員、21名となる。
昭和41年	3月	小型動力ポンプを購入、消防署へ配置 小型動力ポンプを購入、第4分団第4班へ配置
	4月	消防団の班統合が行われ、609名となる。
	5月	ジープが配置替えとなり司令車に改造し、消防署へ配車
	10月	新城ライオンズクラブから赤バイの寄贈を受け、消防署へ配車
	12月	消防職員1名増員、22名となる。 消防ポンプ自動車を購入、第8分団第2班へ配車
昭和42年	1月	小型動力ポンプ付積載車を購入、第4分団第1班へ配車
	4月	消防職員1名増員、23名となる。 小型動力ポンプ2台を購入、第5分団第1班と第7分団第1班へ各1台を配置 消防団の班統合が行われ、557名となる。

- 8月 小型動力ポンプを購入、第5分団第2班へ配置
- 11月 消防専用無線電話SSBを設置
- 12月 消防ポンプ自動車を購入、第9分団第2班へ配車  
広報車を購入、消防本部へ配車
- 昭和43年 4月 消防職員1名増員、24名となる。  
小型動力ポンプを購入、第6分団第3班へ配置  
消防団の班統合が行われ、509名となる。
- 8月 小型動力ポンプを購入、第10分団第3班へ配置
- 10月 作手無線局跡地へ消防庁舎を移転
- 12月 小型動力ポンプを購入、第6分団第2班へ配置
- 昭和44年 4月 消防職員2名増員、26名となる。  
消防団の班統合が行われ、481名となる。  
東三河地区消防相互応援協定を締結
- 6月 小型動力ポンプ付積載車を購入、第1分団第1班へ配車
- 9月 消防専用超短波無線電話装置を設置(更新)
- 10月 消防審議会を設置
- 11月 消防職員2名増員、27名となる。  
日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈を受け、消防署へ配車
- 12月 消防審議会答申が出る。
- 昭和45年 1月 消防職員1名増員、28名となる。
- 2月 日本自動車工業会から一部寄贈を受けA級救急車を購入、消防署へ配車し、救急業務を開始  
小型動力ポンプ2台を購入、第1分団第5班と第3分団第4班へ各1台を配置
- 4月 消防職員2名増員、30名となる。  
消防団の機構改革に伴い、5分団24班387名となる。
- 5月 新城市防火協会発足
- 7月 橋向地区からトヨタスタウトの寄贈を受け緊急車に艤装し、第1分団第5班へ配車  
新城ライオンズクラブからダックスホンダ(2台)の寄贈を受け、消防本部へ配車
- 9月 消防職員1名増員、31名となる。  
鳳来町及び作手村と救急に関する協定を締結
- 昭和46年 2月 小型動力ポンプ積載車を購入、第2分団第3班へ配車
- 3月 新城ライオンズクラブから一部寄贈を受けB級救急車を購入、消防署へ配車  
気象観測器具を設置、観測を開始
- 4月 消防職員2名増員、33名となる。  
消防団員6名減員、381名となる。
- 8月 小型動力ポンプ付積載車を購入、第3分団第6班へ配車  
小型動力ポンプを購入、第3分団第5班へ配置
- 10月 消防職員1名増員、33名となる。

- 昭和47年 3月 司令車を購入、消防署へ配車(更新)
- 4月 消防団の班統合で23名減、5分団22班358名となる。  
消防職員1名増員、33名となる。
- 5月 新城市危険物安全協議会発足
- 6月 新城市防火協会から指揮車の寄贈を受け、消防本部へ配車
- 7月 消防新庁舎完成
- 11月 小型動力ポンプ積載車を購入、第5分団第3班へ配車
- 昭和48年 4月 消防団員3名減員、355名となる。  
本宮山スカイラインにおける消防相互応援協定を締結
- 6月 小型動力ポンプを購入、第1分団第4班へ配置
- 12月 千郷中学校少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会愛知県支部長  
賞受賞
- 昭和49年 4月 消防職員3名増員、36名となる。
- 5月 小型動力ポンプ2台を購入、第1分団第1班と第5分団第4班へ各1台を配置
- 6月 愛知県消防防災行政無線電話を設置
- 12月 小型動力ポンプ付積載車を購入、第4分団第2班へ配車
- 昭和50年 4月 消防団員3名増員、358名となる。
- 5月 第4回東三河地区消防職員親睦野球大会を本市で開催
- 8月 愛知県消防操法大会を本市で開催
- 10月 小型動力ポンプ積載車を購入、第1分団第3班へ配車
- 11月 化学消防ポンプ自動車を購入、消防署へ配車
- 12月 消防ポンプ自動車を購入、第2分団第1班へ配車(更新)
- 昭和51年 3月 新城ライオンズクラブから広報車の寄贈を受け、消防本部へ配車
- 5月 小型動力ポンプ積載車を購入、消防署へ配車
- 8月 愛知県消防操法大会で第5分団第1班が自動車ポンプの部優勝  
新城地方総合防災訓練を本市で開催
- 9月 小型動力ポンプ付積載車2台を購入、第1分団第2班と第4分団第3班へ各1台を配  
車  
小型動力ポンプ積載車を購入、第1分団第4班へ配車
- 10月 全国消防操法大会で第5分団第1班が優良賞受賞
- 12月 消防救急指令装置(B型)を設置
- 昭和52年 6月 査察広報車を購入、消防本部へ配車(更新)
- 8月 愛知県消防操法大会で第1分団第1班が小型ポンプの部優勝
- 11月 小型動力ポンプ付積載車2台を購入、第3分団第2班と第3分団第4班へ各1台を配  
車
- 昭和53年 3月 千郷中学校少年消防クラブが日本防火協会会長賞受賞
- 8月 小型動力ポンプ付積載車2台を購入、第3分団第3班と第3分団第5班へ各1台を配  
車
- 10月 総合気象観測装置を設置(更新)
- 昭和54年 3月 第1回東三河地区消防職員意見発表会を本市で開催

- 4月 消防職員3名増員、38名となる。
- 5月 小型動力ポンプ付積載車を購入、第1分団第5班へ配車
- 8月 愛知県消防操法大会を本市で開催  
東海地震に係る「地震防災対策強化地域」の指定を受ける。
- 11月 化学消防ポンプ自動車を購入、消防署へ配車  
消防ポンプ自動車を購入、第2分団第2班へ配車(更新)
- 12月 愛知県消防防災行政無線高速ファクシミリを設置  
地震計を設置  
小型動力ポンプ積載車を購入、第3分団第7班へ配車
- 昭和55年 2月 地震防災強化計画策定
- 3月 消防署通信室改造工事完了
- 4月 消防職員1名増員、38名となる。
- 6月 長坂自動車興業(株)から指揮車の寄贈を受け、消防本部へ配車(更新)
- 8月 日本消防協会から救急自動車の寄贈を受け、消防署へ配車  
小型動力ポンプ付積載車を購入、第3分団第1班へ配車(更新)  
小型動力ポンプ積載車を購入、第5分団第4班へ配車
- 9月 愛知県総合防災訓練(東海地震想定)を本市で開催
- 10月 救急医療情報システムを設置
- 11月 新城市婦人防火クラブ発足  
新城市少年婦人防火委員会発足
- 12月 消防ポンプ自動車を購入、第5分団第1班へ配車(更新)
- 昭和56年 3月 消防庁舎増築工事完了
- 5月 第10回東三河地区消防職員親睦野球大会を本市で開催
- 8月 小型動力ポンプ付積載車を購入、第4分団第1班へ配車  
自主防災会全地区組織化
- 9月 愛知県総合防災訓練(東海地震想定)を本市で開催
- 12月 消防ポンプ自動車を購入、第5分団第2班へ配車(更新)
- 昭和57年 1月 救急自動車を購入、消防署へ配車(更新)
- 3月 千郷中学校少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会長賞受賞
- 8月 愛知県消防操法大会で第2分団第3班が小型ポンプの部優勝  
日本消防協会から救出救助用資器材搬送車の寄贈を受け、消防署へ配車
- 10月 第8回全国消防操法大会に第2分団第3班が出場
- 11月 小型動力ポンプ付水槽車を購入、消防署へ配車
- 昭和58年 4月 機構改革により消防本部に防災課を設置  
消防職員2名増員、40名となる。  
新城市婦人防火クラブから新城市婦人防火クラブ連絡協議会へと改称
- 9月 小型動力ポンプ付積載車を購入、第1分団第1班へ配車(更新)
- 11月 消防団発足25周年記念事業「消防ひろば」を開催  
日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈を受け、消防署へ配車
- 12月 上市場東住宅防災会組織化

昭和59年	3月	消防本部・消防団が消防庁長官表彰旗受賞
	4月	引佐郡広域施設組合消防本部と消防相互応援協定を締結 高速道路における消防相互応援協定を締結
	5月	司令車を購入、消防署へ配車(更新)
昭和60年	2月	消防団が日本消防協会特別表彰「まとい」受賞
	3月	日本消防協会特別表彰「まとい」受賞記念式典を開催 消防本部・消防署発足20周年記念式典を開催 記念誌「消防20年のあゆみ」発刊 新城市防火協会から広報車の寄贈を受け、消防本部へ配車 消防署車庫・倉庫新築及び庁舎扉改修工事
	8月	小型動力ポンプ付積載車を購入、第2分団第3班へ配車
	11月	愛知県総合防災訓練(林野火災想定)を本市で開催
昭和61年	3月	消防署仮眠室・浴室・車庫改修工事
	4月	緑が丘防災会組織化
	5月	指揮車を購入、消防本部へ配車(更新)
	7月	小型動力ポンプ付積載車を購入、第3分団第6班へ配車(更新)
	10月	愛知県共済生活協同組合から査察広報車の寄贈を受け、消防本部へ配車
昭和62年	1月	消防専用超短波無線電話装置(基地局)を設置(更新)
	4月	河川情報センター端末機を設置 小型動力ポンプを購入、消防署へ配置(更新)
	6月	日本防火協会から防火広報車の寄贈を受け、消防本部へ配車
	7月	愛知県消防操法大会で第2分団第3班が小型ポンプの部優勝
	9月	第16回東三河地区消防職員親睦野球大会を本市で開催 小型動力ポンプ付積載車を購入、第5分団3班へ配車(更新)
	10月	全国婦人消防操法大会で新城市婦人防火クラブ連絡協議会が入賞
昭和63年	2月	愛知県防災行政無線網総合システムを設置(更新) 第10回東三河地区消防職員意見発表会を本市で開催
	4月	ワードプロセッサを設置
	7月	総合気象観測装置を設置(更新)
平成元年	5月	新城市防火協会から小型貨物自動車及びワードプロセッサの寄贈を受け、消防本部へ配車及び配置
	8月	日本防火協会から電源照明用資器材等搬送車の寄贈を受け、消防署へ配車
	9月	愛知県総合防災訓練(東海地震想定)を本市で開催
	11月	愛知県防火推進大会を本市で開催
	12月	小型動力ポンプ付積載車を購入、第4分団2班へ配車(更新) 15m級はしご付消防ポンプ自動車を購入、消防署へ配車
平成2年	3月	愛知県下広域消防相互応援協定を締結
	10月	小型動力ポンプ付積載車を購入、第1分団3班へ配車(更新)
	11月	消防ポンプ自動車を購入、第2分団第1班へ配車(更新)
平成3年	3月	コミュニティ消防センター完成(第5分団第1班)

- 4月 消防職員1名増員、41名となる。
- 8月 日本消防協会から小型動力ポンプ付積載車の寄贈を受け、第1分団第2班へ配車(更新)
- 12月 コミュニティ消防センター完成(第2分団第1班)(第3分団第1班)
- 平成4年 2月 小型動力ポンプ付積載車を購入、第1分団第4班、第3分団第7班、第4分団第3班へ配車(更新)
- 聴覚障害者用ファクスを通信室へ設置
- 3月 愛知県共済生活協同組合から救急自動車の寄贈を受け、消防署へ配車(更新)
- 4月 新城市婦人防火クラブ連絡協議会から新城市婦人防火クラブへ再改称
- 8月 消防庁舎仮眠室増築工事
- 10月 小型動力ポンプ付積載車を購入、第3分団第2班、第3分団第4班へ配車(更新)
- 11月 救助工作車を購入、消防署へ配車
- 愛知県消防大会を本市で開催
- 12月 コミュニティ消防センター完成(第3分団第2班)(第3分団第4班)
- 平成5年 3月 電話交換機を更新
- 消防庁舎下水道排水接続工事
- 4月 消防職員4名増員、45名となる。
- 9月 第22回東三河地区消防職員野球大会を本市で開催
- 10月 化学消防ポンプ自動車Ⅱ型を購入、消防署へ配車(更新)
- 12月 コミュニティ消防センター完成(第1分団第2班)
- 平成6年 1月 小型動力ポンプ付積載車を購入、第3分団第3班、第3分団第5班へ配車(更新)
- 2月 コミュニティ消防センター完成(第3分団第5班)
- 第16回東三河地区消防職員意見発表会を本市で開催
- 新城・南設消防広域常備化研究会を開催「広域常備消防事務委託準備委員会設置要綱」を決定した。
- 3月 コミュニティ消防センター完成(第5分団第3班)
- 高規格救急自動車を購入、消防署へ配車
- 4月 消防職員2名増員、47名となる。
- 11月 南設楽郡鳳来町長、同郡作手村長から新城市長へ「消防事務に関する事務の委託について」の要請書が提出された。
- 12月 コミュニティ消防センター完成(第2分団第2班、第4分団第2班)
- 南設楽郡鳳来町長及び作手村長と新城市長との間で、常備消防事務の委託の基本的事項に関する確認書の締結がされた。
- 平成7年 1月 地震計を設置
- 3月 消防ポンプ自動車を購入、第2分団第2班へ配車(更新)
- 小型動力ポンプ付積載車を購入、第1分団第5班、第3分団第1班へ配車(更新)
- 南設楽郡鳳来町議会及び同郡作手村議会において、消防事務の委託に関する議決がされた。
- 新城市議会において、消防事務の受託に関する議決がされた。
- 新城・南北設楽地域(稲武町を除く)のモデル広域消防の指定を受けた。

- 県下高速道路における消防相互応援協定を締結
- 4月 消防職員9名増員56名となる。  
南設楽郡鳳来町及び作手村が消防体制の常備化に係る政令指定を受けた。
- 10月 指揮車を購入、消防本部へ配車（更新）
- 11月 新城ライオンズクラブから査察広報車2台の寄贈を受けた。（鳳来分署、作手出張所へ配車）  
消防ポンプ自動車を購入、消防署へ配車（更新）
- 12月 コミュニティ消防センター完成（第3分団第7班）  
コミュニティ消防センター完成（第5分団第4班）  
南設楽郡鳳来町長及び作手村長と新城市長との間で消防事務の委託に関する附属協定書の締結がされた。
- 平成8年 1月 広域消防無線設備・無線中継施設工事完了
- 2月 地震災害避難場所の見直しを行い、市内41か所を指定  
作手出張所庁舎新築工事完了
- 3月 消防ポンプ自動車を購入、第5分団第1班へ配車(更新)  
小型動力ポンプ付積載車を購入、第5分団第4班へ配車(更新)  
山之内製薬株式会社から一部寄贈を受け、救急車を購入（作手出張所へ配車）  
鳳来分署庁舎新築工事完了  
広域常備消防業務開始に伴う条例改正議決  
新城市と鳳来町・作手村との間で締結されている「救急に関する協定書」の廃止  
記念誌「消防30年のあゆみ」発刊
- 4月 消防職員8名増員64名となる。  
防災行政無線同報系運用開始  
南設楽郡鳳来町及び同郡作手村の消防事務受託業務開始
- |  |             |     |             |    |
|--|-------------|-----|-------------|----|
|  | 新城市消防署鳳来分署  |     |             |    |
|  | 消防職員        | 10名 | 水槽付消防ポンプ自動車 | 1台 |
|  | 救急自動車       | 1台  | 査察広報車       | 1台 |
|  | 新城市消防署作手出張所 |     |             |    |
|  | 消防職員        | 8名  | 水槽付消防ポンプ自動車 | 1台 |
|  | 救急自動車       | 1台  | 査察広報車       | 1台 |
- 6月 三遠南信災害時相互応援協定を締結
- 10月 愛知県防災ヘリコプター応援協定を締結  
モデル広域消防実施準備委員会が開催され「モデル広域消防実施準備委員会設置要綱」を決定した。
- 12月 コミュニティ消防センター完成（第3分団第3班）
- 平成9年 1月 小型動力ポンプ付積載車を購入、第4分団第1班へ配車(更新)  
小型動力ポンプ付水槽車を購入、消防署へ配車(更新)
- 2月 消防ポンプ自動車を購入、消防署へ配車  
愛知県共済生活協同組合から査察広報車1台の寄贈を受けた。  
豊橋信用金庫から救急車1台の寄贈を受けた。
- 3月 コミュニティ消防センター完成（第1分団第5班）

- 消防ポンプ自動車を購入、第5分団第2班へ配車(更新)
- 4月 消防職員9名増員、73名となる。  
防災行政無線同報系屋外拡声子局を増設し、市内38局となる。
- 6月 新城郵便局と災害支援協定に関する覚書を締結する。
- 8月 日本消防協会から小型動力ポンプ付軽積載車の寄贈を受けた。
- 12月 コミュニティ消防センター完成（第1分団第3班）  
北設楽郡設楽町長・同郡東栄町長・同郡豊根村長・同郡富山村長及び同郡津具村長から新城市長へ「消防事務に関する事務の委託について」の要望書が提出された。  
北設楽郡設楽町・同郡東栄町・同郡豊根村・同郡富山村・及び同郡津具村と新城市長との間で常備消防事務委託の基本的事項に関する確認書が締結された。
- 平成10年 2月 携帯電話119番等分散受信運用開始
- 3月 モデル広域消防無線設備・無線中継施設工事完了  
北設楽郡設楽町議会・同郡東栄町議会・同郡豊根村議会・同郡富山村議会及び同郡津具村議会において消防事務の委託に関する議決がされた。  
新城市議会において消防事務の受託に関する議決がされた。
- 4月 消防職員12名増員、85名となる。  
北設楽郡設楽町・同郡東栄町・同郡豊根村・同郡富山村及び同郡津具村が消防体制の常備化に係る政令指定を受けた。
- 9月 コミュニティ消防センター完成（第1分団第4班）
- 12月 コミュニティ消防センター完成（第3分団第6班）  
北設楽郡設楽町長、同郡東栄町長、同郡豊根村長、同郡富山村長及び同郡次ぐ村長と新城市長との間で消防事務の委託に関する附属協定書の締結がされた。
- 平成11年 1月 水槽付消防ポンプ自動車2台を購入、設楽・東栄分署へ配車。  
小型動力ポンプ付積載車3台を購入、津具・豊根分遣所・富山駐在所へ配車。
- 2月 資機材搬送車3台を購入、津具・豊根分遣所・富山駐在所へ配車。  
広報車2台を購入、設楽・東栄分署へ配車。  
東栄分署庁舎新築工事完了
- 3月 設楽分署・豊根分遣所・富山駐在所及び津具分遣所庁舎新築工事完了  
緊急通信指令設備整備工事完了  
モデル広域消防業務開始に伴う条例改正議決
- 4月 消防職員15名増員、100名となる。  
北設楽郡設楽町・同郡東栄町・同郡豊根村・同郡富山村・及び同郡津具村の消防事務受託業務開始
- |             |     |             |    |
|-------------|-----|-------------|----|
| 新城市消防署設楽分署  |     |             |    |
| 消防職員        | 13名 | 水槽付消防ポンプ自動車 | 1台 |
| 救急自動車       | 1台  | 査察広報車       | 1台 |
| 新城市消防署津具分遣所 |     |             |    |
| 消防職員        | 1名  | 小型動力ポンプ付積載車 | 1台 |
| 資機材搬送車      | 1台  |             |    |

新城市消防署東栄分署

消防職員	14名	水槽付消防ポンプ自動車	1台
救急自動車	1台	査察広報車	1台

新城市消防署豊根分遣所

消防職員	1名	小型動力ポンプ付積載車	1台
資機材搬送車	1台		

新城市消防署富山駐在所

消防職員	1名	小型動力ポンプ付積載車	1台
資機材搬送車	1台		

東三信用組合から指揮車（パジェロイオ）の寄贈を受け、消防本部へ配車  
 モトサイクレットサワダからオートバイの寄贈を受け、消防本部へ配車

8月	引揚救助の部で第28回全国消防救助技術発表会出場（横浜市）
10月	第28回東三河地区消防職員競練会を本市で開催
11月	防災指揮車を購入、消防本部へ配車（更新）
平成12年 1月	水槽付消防ポンプ自動車を購入、作手出張所へ配車（更新）
2月	第22回東三河地区消防職員意見発表会を本市で開催
3月	コミュニティ消防センター完成（第1分団第1班）
4月	消防職員6名増員（うち女性1名）、104名となる。
平成13年 3月	コミュニティ消防センター完成（第2分団第3班） 小型動力ポンプ付積載車を購入、第1分団第1班へ配車（更新）
4月	消防職員6名増員（うち女性1名）、108名となる。
8月	引揚救助の部で第30回全国消防救助技術発表会出場（東京都）
9月	愛知県・新城市総合防災訓練（東海地震想定）を本市で開催（桜淵いこいの広場）
12月	コミュニティ消防センター完成（第4分団第1班）
平成14年 3月	小型動力ポンプ付積載車を購入、第2分団第3班へ配車（更新）
4月	消防職員5名増員、112名となる。
10月	第4回東三河地区救急症例研究会を本市で開催 高規格救急自動車を購入、鳳来分署に配備（更新）
11月	救命ボートを2艘購入、防災センター、水防倉庫へ配備
平成15年 2月	小型動力ポンプ付積載車を購入、第3分団第6班へ配車（更新） 小型動力ポンプ付積載車を購入、第5分団第3班へ配車（更新）
4月	消防職員5名増員、115名となる。 愛知県防災航空隊職員1名派遣。（2年間）
7月	第48回愛知県消防操法大会を本市で開催
8月	ほふく救出の部で第32回全国消防救助技術発表会出場（宮城県）
11月	移動防災教室（新城市内全域） ～2月
12月	東南海・南海地震防災対策推進地域に指定された
平成16年 1月	平成15年度新城市防災ボランティア養成講座を開催
4月	消防職員4名増員、118名となる。 日本消防協会研修1名（2年間）

	8月	渡過の部で第33回全国消防救助技術発表会出場（兵庫県）
	11月	新城市・天竜消防組合消防相互応援協定締結 新城市消防防災センター（仮称）建設工事基本設計業務委託
	12月	新城市土地開発公社が新城市消防防災センター（仮称）建設予定地（新城市平井地内）を代行取得
平成17年	1月	新城市消防防災センター（仮称）建設予定地地質調査業務委託
	2月	日本消防協会から新城市消防団へ指揮車（ハイラックスサーフ）の寄付を受ける
	3月	高規格救急自動車を購入、東栄分署に配備（更新） 2005年日本国際博覧会長久手消防署1名派遣
	4月	消防職員2名増員、118名となる。
	10月	消防職員1名増員、119名となる。 新城市・鳳来町・作手村が合併し、新城市となる。 管内の設楽町・津具村が合併し、設楽町となる。 消防団が、市町村合併に伴い新城市新城消防団・新城市鳳来消防団・新城市作手消防団として1,138名で発足。
	11月	管内の豊根村・富山村が合併し、豊根村となる。
平成18年	2月	第28回東三河地区消防職員意見発表会を本市で開催 小型動力ポンプ積載車を購入、鳳来消防団第2分団第2部へ配車 小型動力ポンプ積載車を購入、鳳来消防団第6分団第4部へ配車
	3月	新城市消防防災センター（仮称）建設予定地を新城市土地開発公社から取得
	4月	消防職員1名増員、120名となる。
	6月	防災行政無線同報系設備整備工事着手
	10月	新城市消防防災センター起工式及び起工報告会 第53回東三河地区消防大会開催
	11月	高規格救急自動車を購入、消防署本署に配備（更新）
	12月	小型動力消防ポンプを購入、作手消防団第3分団第3班大和田へ配備
平成19年	2月	愛知県共済協同組合から指揮車（アリオン）の寄付を受ける。 豊橋市・豊川市及び新城市における消防通信指令事務の共同処理に係る基本的事項に関する確認書締結
	7月	第52回愛知県消防操法大会優勝（鳳来消防団第1分団第1班）
	9月	小型動力ポンプ軽積載車購入、作手消防団第3分団第3班戸津呂へ配備
平成20年	1月	新城市消防防災センター完成引渡し式 高規格救急自動車を購入、設楽分署に配備（更新） 社団法人日本損害保険協会から小型動力ポンプ付軽積載車の寄付を受け、鳳来消防団第4分団第4班へ配備 新城市及び南信州広域連合消防相互応援協定締結
	3月	新城市消防防災センター竣工式及び竣工報告会 防災行政無線同報系設備整備工事完了
	4月	消防職員1名増員、121名となる。 新城市消防防災センター運用開始

- 豊橋市・豊川市及び新城市消防通信指令事務協議会加入  
(同日より豊橋市及び豊川市と消防通信指令に関する事務の共同運用を始める)  
新城市新城消防団、新城市鳳来消防団、新城市作手消防団が統合し、新城市消防団として定数980名で発足(6方面隊16分団48班)
- 平成21年 2月 愛知県共済協同組合から広報車(アイシス)の寄付を受ける。  
第31回東三河地区消防職員意見発表会において、最優秀賞を受賞
- 3月 災害対応資機材搬送車を更新、消防総務課に配備  
水槽付消防ポンプ自動車を更新、鳳来分署に配備
- 6月 愛知県内で新型インフルエンザ感染患者発生  
デジタル式地域防災行政無線移動系設備整備工事着手
- 9月 緊急雇用創出事業において消防総務課に臨時職員を雇用
- 10月 本署指揮隊に指揮車を配備  
台風18号(10月7日～8日)の来襲により、災害対策本部を設置し職員の第2非常体制をとった。市内3箇所自主避難所を開設。2世帯2名の自主避難者
- 平成22年 1月 本署救助工作車を更新  
新城市災害危機管理能力向上訓練を開催
- 2月 作手出張所に高規格救急自動車を配備
- 3月 旧消防庁舎望楼解体撤去工事を行う。  
消防防災センター内に緊急地震速報を導入  
千郷分団第1班に消防ポンプ自動車を貸与  
デジタル式地域防災行政無線移動系設備整備工事完了
- 4月 消防職員1名増員、122名となる。
- 12月 本署化学消防ポンプ自動車を更新
- 平成23年 2月 第33回東三河地区消防職員意見発表会を本市で開催  
鳳来分署高規格救急自動車を更新  
愛知県共済協同組合から広報車(サクシード)の寄付を受ける。
- 3月 東日本大震災被災地に緊急消防援助隊として隊員7名派遣(消火部隊・救急部隊)  
全国瞬時警報システム(J-ALERT)を運用開始  
作手出張所水槽付消防ポンプ自動車を更新  
コミュニティ消防センター完成(作手北分団第1班)
- 4月 消防職員4名増員、126名となる。  
愛知県防災航空隊職員1名派遣(3年間)
- 8月 平成23年度愛知県・新城市総合防災訓練を実施
- 11月 東栄分署水槽付消防ポンプ自動車を更新
- 平成24年 2月 コミュニティ消防センター完成(海老分団第1班)  
本署小型動力ポンプ付水槽車を更新
- 4月 消防職員3名増員、129名となる。  
消防本部に予防課を設置  
機構改革により防災対策課を総務部へ移管